



Title	Kiga語における命令形以外の命令表現
Author(s)	梶, 茂樹
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2025, 36, p. 64-69
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100835">https://doi.org/10.18910/100835</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## Kiga 語における命令形以外の命令表現

### Imperative Meanings Expressed via Other Forms than the Imperative Mood in Rukiga

梶 茂樹\*

KAJI Shigeki

#### 0. はじめに

本稿はウガンダ南西部に話される Kiga 語<sup>1</sup>について、本来の命令形以外の命令表現について述べる。Kiga 語には命令表現として (1) のような形式がある (梶 2024)。

- (1) a. 命令形
- b. 接続法
- c. 動詞 *okureka* 「止める」の命令形を用いた否定命令
- d. 動詞 *okureka* 「止める」の接続法形を用いた肯定・否定命令

(1a) の命令形は動詞 1 個で形成され、様々な命令表現の基本となるもので、梶 (2024) で述べた。(1c) も動詞 *okureka* 「止める」の命令形を用いるが、これは第 2 節で見るように動詞 2 個で形成され、基本となる命令形ではない。(1a) の命令形は、動詞に組み込まれる代名詞の人称によって声調が変わるなど、他の活用では考慮する必要のない幾つかの項目が係わってくるため、その形成はかなり複雑である。しかし他方、命令形は 2 人称単数に対してしか用いられず、しかも肯定形のみ存在し否定形はない。また 2 人称複数に対しては肯定形も否定形も存在しない。これらには (1b, c, d) の形式が用いられるのである。本稿のテーマは、この (1b, c, d) の形式である。これにより Kiga 語の命令表現全体がカバーされる。

---

\* 京都大学名誉教授 (professor emeritus, Kyoto University)、京都産業大学ことばの科学研究センター研究員 (research associate at the Center for Language Studies, Kyoto Sangyo University)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー (research fellow at the Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies)

<sup>1</sup> バンツー系。Simons et al. (eds.) (2017) は、話者数を 2004 年の部族人口統計をベースに、その北の Nkore 語話者と合わせて 2,390,000 人としている。Kiga 語は Nkore 語とよく似ており、まとめて Runyankore-Rukiga とされることが多い。表記法も Nkore 語との共通正書法を用いている。しかし Kiga 語は Nkore 語とは細かいところでは異なっており、本稿は Kiga 語 のみについて述べる。動詞活用全体については現在 Kaji (in preparation) としてまとめつつある。

## 1. 接続法

まず接続法を用いる方法について述べる。接続法には本来の接続法（ここでは接続法 1 と呼ぶ）と、否定でしか用いられない接続法 2 とがある。いずれも命令表現として用いられる。まず接続法 1 の場合を示す。

### 1.1. 接続法 1

接続法とは本来、動詞従属節の中で用いられる動詞形式であり、接続法 1 もそうであるが、Kiga 語では単独でも用いられる。(2) に動詞 **okuge:nda**<sup>2</sup> (語根 **-gend-**) 「行く」を用い、人称の部分の活用形を示す。意味はいちいち示さないが、**ngyé:nde** は「私が行くように」、**ogyé:nde** は「あなたが行くように」などとなる。例として、(3a) に **ogyé:nde**、そして (3b) にその否定形の **otagyé:nda** の形態論分析を示す<sup>3</sup>。

(2)	肯定		否定	
	単数	複数	単数	複数
1 人称	ngyé:nde	tugyé:nde	ntagyé:nda	tutagyé:nda
2 人称	ogyé:nde	mugyé:nde	otagyé:nda	mutagyé:nda
3 人称	agyé:nde	bagyé:nde	atagyé:nda	batagyé:nda

#### (3) a. ogyé:nde

o-gend-é<sup>4</sup>

you(sg.)-go-subj<sup>5</sup>

「あなた方が行くように → あなたは行きなさい」

<sup>2</sup> 以下の Kiga 語の表記は正書法に従う。ただし声調符号と母音の長音記号は付しておいた。正書法の **ky** と **gy** はそれぞれ硬口蓋閉鎖音の [c] と [ɟ] を表す。Kiga 語には母音の長短の区別がある。「行く」の語根 **-gend-** の母音 **e** は本来短母音であるが、後に鼻音複合が続くと音声的に長く実現される。これは特に母音の声調が H 声調や F (falling) 声調の場合顕著である。声調が L (low) 声調の場合は 2 モーラの長さとはならず半長音記号の・を付ける。

<sup>3</sup> これらの形式の前に、しばしば勧誘の意味を表す **ká** という小辞が付き **ká tugyé:nde** 「われわれが行きましょう」のように用いられることがある。この用法はここで言う命令表現とは異なるので、詳細は割愛する。

<sup>4</sup> 本来、語尾の **-é** が高声調 H (high) を持っているのであるが、この H は単独形（後にポーズが来る場合の発音）ではその位置ではなく 1 つ前の音節で実現される。(3b) の **-á** も同様である。

<sup>5</sup> 略語は以下の通り。cl: class (名詞のクラス)、FV: final vowel (動詞語尾母音)、Neg: negative (否定)、NPr: nominal prefix (名詞接頭辞)、pl: plural (複数)、sg: singular (単数)、subj: subjunctive (接続法)、TM: tense marker (時制標識)

## b. otagyé:nda

o-ta-gend-á

you(pl.)-Neg-go-FV

「あなたが行かないように → あなた方は行くな」

命令表現としては、とりわけ否定形の **otagyé:nda** 「あなたは行くな」、**mutagyé:nda** 「あなた方は行くな」が重要である。命令形には2人称単数の肯定形しか存在しないため、この接続法1の2人称単数と複数の否定形が否定命令の意味を表すものとして用いられる。またその肯定形の **ogyé:nde** 「あなたが行くように → あなたは行きなさい」、**mugyé:nde** 「あなた方が行くように → あなた方は行きなさい」も、本来の命令形よりは表現は柔らかいが命令表現として用いられる。

## 1.2. 接続法 2

接続法2には否定形しかなく、「何々すべきでない」、「何々するな」という意味を表す。接続法1の否定形の意味とよく似ているが、接続法1は発話時点での行為の禁止を表すが、この接続法2では「このあと何々すべきでない」という風に発話の時点よりあとの時間帯の行為の禁止を表す。この接続法2の否定形は、2人称単数に対する肯定命令しか存在しない命令形の補完となるものであるが、同時に2人称以外の形もあるので、1人称や3人称に対する否定の命令表現として用いられる。

(4)に動詞 **okuge:nda** (語根 **-gend-**) 「行く」の人称の部分の活用形を示す。意味は **otá:gyenda** 「あなたはあとで行かないように → あなたはあとで行くな」、**mutá:gyenda** 「あなた方はあとで行かないように → あなた方はあとで行くな」のようである。そして、(5)に **otá:gyenda** と **mutá:gyenda** の形態論分析を示す。

(4)	単数	複数
1 人称	ntá:gyenda	tutá:gyenda
2 人称	otá:gyenda	mutá:gyenda
3 人称	atá:gyenda	batá:gyenda

## (5) a. otá:gyenda

o-ta-á-gend-a

you(sg.)-Neg-TM-go-FV

「あなたはあとで行くな」

b. *mutá:gyenda*

*mu-ta-á-gend-a*

*you(pl.)-Neg-TM-go-FV*

「あなた方はあとで行くな」

## 2. 動詞 *okureka* 「止める」の命令形を用いた否定命令

命令表現は通常、動詞 1 個を用いた形式であるが、稀に動詞 2 個を用いた形式になる場合がある。行為の禁止を動詞内の否定要素で表すのではなく、禁止を表す他の動詞の力を借りるのである。本節と次節では、行為を表す動詞の前に、禁止を表すもう 1 つの動詞 *okureka* 「止める」を用いて否定命令を表す表現について述べる。本節は、*okureka* 「止める」の命令形を用いた否定命令について述べる。(6) のような使い方である。

- (6) a. *Reka kugyenda!* 「あなたは行くな」 (= *Otagyé:nda!*)  
b. *Reka kutemburuka omúsozi!* 「あなたは丘を下るな」 (= *Otatembúruka omúsozi!*)  
c. *Reka kúkora!* 「あなたは働くな」 (= *Otakóra!*)

構成は、まず動詞 *okureka* 「止める」の命令形が来る。命令形であるから 2 人称単数の肯定形しかない。続いて、動詞の不定形（クラス 15 の動名詞）の前節辞 *o-* を除いた形が来る。(6a) の例で言えば、*Reka* 「あなたは止める」のあとに「行く」を意味する動詞の不定形 *okugye'nda* から前節辞 *o-* を除いた *kugye'nda* を付ける。従って、表現としては、「あなたは行くことを止める」という言い方である。これで「あなたは行くな」という意味になる。この表現は接続法 1 の否定形を用いた *otagyé:nda* 「あなたは行くな」と同じ意味で用いられる。

## 3. 動詞 *okureka* 「止める」の接続法 1 形を用いた否定命令

動詞 2 個を用いた命令表現の 2 番目は、動詞 *okureka* 「止める」の接続法 1 形を用いた形式である。これを本節で述べる。動詞 *okureka* 「止める」の接続法 1 形のあとに、動詞の不定形（クラス 15 の動名詞）から前節辞 *o-* を除いた形が来る。この点は前節の場合と同じである。(7) のような使い方がなされる。(8) に (7) の形態論分析を示す。

- (7) a. *Oreké kugyenda!* 「あなたは行くのを止めなさい」  
b. *Mureké kugyenda!* 「あなた方は行くのを止めなさい」

(8) a. Oreké kugyenda

o-rek-é<sup>6</sup>                      ku-gyend-a  
you(sg.)-stop-subj      NPr.cl15-go-FV  
「あなたは行くのを止めなさい」

b. Mureké kugyenda

mu-rek-é                      ku-gyend-a  
you(pl.)-stop-subj      NPr.cl15-go-FV  
「あなた方は行くのを止めなさい」

なお (7) のように **okureka** という動詞のあとに動詞の不定形が来れば「自分が何々するのを止める」という意味になるが、動詞の行為者が自分ではない場合、その行為者を動詞の主語として接続法 1 にすれば、「その行為者が何々するのをさせておく」という意味になる。(9a) の例では行為者は彼らであり、「彼ら行くように、あなたはさせなさい」ということから「あなたは彼らを行かせなさい」という肯定命令の意味を表すことになる。(10) に **Oreké bagyé:nde** と **Mureké bagyé:nde** の形態論分析を示す。

(9) a. Oreké bagyé:nde! 「あなたは彼らを行かせなさい」

b. Mureké bagyé:nde! 「あなた方は彼らを行かせなさい」

(10) a. Oreké bagyé:nde!

o-rek-é                      ba-gyend-é  
you(sg.)-leave-subj      they-go-subj  
「あなたは彼らを行かせなさい」

b. Mureké bagyé:nde!

mu-rek-é                      ba-gyend-é  
you(pl.)-leave-subj      they-go-subj  
「あなた方は彼らを行かせなさい」

---

<sup>6</sup> この語尾の -é の H 声調は、あとに **kugyenda** が来るためポーズはないので前の音節に移らない。

#### 4. 一般現在形

Kiga 語の動詞活用の中に一般現在形というのがある。これは (11a) のように恒常的出来事、一般的真理を表すのに用いられるのであるが、社会的強制力を持った行為を表すにも用いられる。(11b) のような例である。これは本来は命令表現ではないのであるが、社会的圧力による一種の命令表現と考えていいであろう。

(11) a. Amé:zi gagyenda mumû:ndi.

amé:zi    ga-gyend-a            mu            murû:ndi  
water.cl6   SPr.cl6-flow-FV   in.cl18   river3  
「水は川の中を流れる」

b. Omushé:ja t'á:ra.

omushé:ja   tí            a-rir-á  
man.cl1   Neg   SPr.cl1-cry-FV  
「男というものは泣いてはならない」

#### 5. まとめ

本稿は Kiga 語の本来の命令形以外の命令表現について述べた。Kiga 語の命令形には、2 人称単数の肯定形しか存在しない。2 人称複数には肯定形も否定形も存在しない。このように、Kiga 語の命令形は意味的には使用範囲が狭いため、それ以外の命令表現を幾つか発達させている。本稿は、(1b) 接続法、(1c) 動詞 okureka 「止める」の命令形を用いた否定命令、(1d) 動詞 okureka 「止める」の接続法形を用いた肯定・否定命令の 3 つについて述べた。そして、さらに一般現在形も一種の命令表現として用いられること述べた。Kiga 語の命令形（肯定形）は「何々しろ」というきつい表現であるが、それ以外の表現は様々なニュアンスを以って命令が表現される。

#### 参考文献

梶 茂樹. 2024. 「Kiga 語の命令形」『スワヒリ&アフリカ研究』35: 90-102.

Kaji, Shigeki. (in preparation) *Kiga Verb Conjugations*.

Simons, Gary F. and Charles D. Fennig (eds.) 2017. *Ethnologue: Languages of Africa and Europe* (Twentieth Edition). Dallas, SIL International.